





宣皇政土巴未年松平信濃守奉幕府命

監司以下台餘令隨至船夷國蓋用國

之幸之予亦圖也幸亦從世也其國所

人物山水異國產物也其地其地其地

也其地其地其地其地其地其地其地

其地其地其地其地其地其地其地

市草家老杉南村家老杉南村家老

蝦夷通略紀

○松前○根守○大次

一石餘今次同山坂  
一里餘之品之文峰後三三峰三

○吉良の志田の山村○福原福岡尾ヶ崎の川○中川チコチ川

○キコイのハツカリの泉次ウツノ舟○釜石ウツノ舟○南別ウツノ舟

湯河内廻船 小高別毛田山南西麓く海を論及 南別毛田山南西麓く海を論及

天神社あり ○ヤキナイ村ウス天神社あり ○飛川毎座り 三谷戸切川

戸切戸切 ○泊石戸切 ○有川のヤキナイ電田電田 ○電田電田

魚田の船 船之後の高山船之後の高山 船之後の高山船之後の高山

船之後の高山船之後の高山 船之後の高山船之後の高山

船之後の高山船之後の高山 船之後の高山船之後の高山

船之後の高山船之後の高山 船之後の高山船之後の高山

船之後の高山船之後の高山 船之後の高山船之後の高山

集りて山集りて山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

山山 山山 山山

湾をぬけて内浦山へ向ふ内浦山は極道の風景絶致  
之より山は険甚きなりたふ山は廻りぬきなりけり  
ありてしさいの川の中ち七間けりてやせし川の邊を  
是の名もあま川と云ふは皆さしさい川へなる

○テシラナイ村と入系内浦山は極道にて埋たる山なり  
村は海邊にて漢泉の吐ぬ嘴も鳥を名をとりて  
其の東は海後内浦山之右にありて○カサワラ○  
大サハラ○内浦山は駒ヶ嶽と云ふ嶽山之山と云ふ嶽の上あり  
しと云ふ山あり山峯は大石あり山は極道西七八里あり

衆山より山あり極道なり○サワラ内海海上七里○エトモ

白と山と○エテワケ○エトモ之間白鳥間海中毎行あり

○エテワケハ島之間を名し少多ありけ間枝友よめ内海

とて七ヶ島間極道なり○イタシキ嶽○ワシヘツワシヘツ川

後及ニ言テ余サキノ各所○ホロヘツホロヘツ川は地表しぬ家も時と節

ホロヘツ川毎處○ホロヘツは地表しぬ家も時と節

○ホロヘツは地表しぬ家も時と節

○ホロヘツは地表しぬ家も時と節

在川向ひ表村ありしキウ川毎處りアイロの山にキウの山

サレの山 僅く是也○シキウ○シラタイ。シラタイ川舟屋  
 頗る大向之又ヲシヨロヘツ川之橋を舟屋橋之付川に傍  
 シラタイ村之○シヤタイ人ヲ シヤタイ人ハ川有タルコト山言ク  
 也不違山と云阪 聲と見古山と敷内南山と多摩毛  
 以上八橋あり ○バツベツの川と流合海入舟屋あり  
 傍通山里子路ありタルコトの川有付川をニシタツツの河  
 流合て千石枝川有舟屋人付路一里程余コイトイト川有川中  
 十間余水とく流一舟をニ西中流てかけ橋を白老と  
 馬ウヘツ近海を茶やと後ハ赤と○コイトイト シラタイ人  
 以程山里余  
 ○マコエイ マコエイ川とコイ  
 トイト川とニ重なる ○サウヌツフ川あり ●ユウブツ

ユウブツは枝川と  
 舟屋橋と云々 ユウブツ川を介ニ中間ヤと川口海船も入  
 入水危所とく深サは四尺程もありニ水と流合て石多し向  
 運上をハ本立舟夷人くもるおも有て他物所あり  
 コイトイトの付近ハ唐茶あり山遠し言山見は乃は  
 丸里あり夷人織布くキナ席を は 丸園と云は夷  
 名キナと云ふ夏月丸園を荊楚陽をアと曰ふコト  
 如くゆふあ織思と赤と深く織をアヤキナと云  
 アツし布をアヤウの本のはと丸月比むきを水も浸し  
 日あり紳きて布と云んユウブツが東乃一里余余アツ

三川<sup>有</sup>之<sup>有</sup>序<sup>さ</sup>字向<sup>中</sup>川<sup>中</sup>流<sup>ひ</sup>たり<sup>り</sup>も<sup>も</sup>里<sup>余</sup>り<sup>た</sup>り<sup>る</sup>  
沿<sup>着</sup>是<sup>の</sup>右<sup>岸</sup>に<sup>舟</sup>を<sup>置</sup>き<sup>て</sup>又<sup>登</sup>り<sup>て</sup>川<sup>中</sup>に<sup>舟</sup>  
鳴<sup>す</sup>所<sup>に</sup>サ<sup>ン</sup>エ<sup>ン</sup>川<sup>と</sup>ア<sup>ツ</sup>川<sup>の</sup>流<sup>合</sup>て<sup>千</sup>ノ<sup>二</sup>口<sup>又</sup>テ<sup>の</sup>  
流<sup>に</sup>随<sup>て</sup>二<sup>里</sup>余<sup>り</sup>水<sup>中</sup>川<sup>骨</sup>を<sup>有</sup>り<sup>て</sup>流<sup>通</sup>り  
一<sup>里</sup>程<sup>に</sup>大<sup>河</sup>向<sup>り</sup>中<sup>七</sup>八<sup>回</sup>程<sup>に</sup>水<sup>深</sup>く<sup>流</sup>る<sup>る</sup>  
此<sup>を</sup>舟<sup>に</sup>乗<sup>り</sup>て<sup>流</sup>る<sup>時</sup>に<sup>舟</sup>に<sup>乗</sup>る<sup>人</sup>は<sup>操</sup>縦<sup>多</sup>り<sup>り</sup>時<sup>に</sup>夜<sup>中</sup>  
東方<sup>に</sup>波<sup>上</sup>大<sup>見</sup>也<sup>舟</sup>之<sup>事</sup>を<sup>大</sup>に<sup>操</sup>縦<sup>程</sup>を<sup>有</sup>り  
舟<sup>に</sup>乗<sup>り</sup>て<sup>流</sup>る<sup>時</sup>に<sup>舟</sup>に<sup>乗</sup>る<sup>人</sup>は<sup>操</sup>縦<sup>多</sup>り<sup>り</sup>時<sup>に</sup>夜<sup>中</sup>  
舟<sup>に</sup>乗<sup>り</sup>て<sup>流</sup>る<sup>時</sup>に<sup>舟</sup>に<sup>乗</sup>る<sup>人</sup>は<sup>操</sup>縦<sup>多</sup>り<sup>り</sup>時<sup>に</sup>夜<sup>中</sup>

物、夷もさうな

○武川<sup>は</sup>後<sup>に</sup>通<sup>る</sup>を<sup>十</sup>八<sup>回</sup>下<sup>に</sup>甘<sup>川</sup>有<sup>る</sup>を<sup>甘</sup>川<sup>向</sup>り<sup>て</sup>甘<sup>川</sup>向<sup>り</sup>  
深<sup>四</sup>五<sup>尺</sup>深<sup>場</sup>が<sup>も</sup>河<sup>程</sup>上<sup>の</sup>洲<sup>に</sup>二<sup>つ</sup>の<sup>川</sup>を<sup>流</sup>り<sup>又</sup>深<sup>四</sup>  
五<sup>尺</sup>深<sup>場</sup>が<sup>も</sup>河<sup>程</sup>上<sup>の</sup>洲<sup>に</sup>二<sup>つ</sup>の<sup>川</sup>を<sup>流</sup>り<sup>又</sup>深<sup>四</sup>  
五<sup>尺</sup>深<sup>場</sup>が<sup>も</sup>河<sup>程</sup>上<sup>の</sup>洲<sup>に</sup>二<sup>つ</sup>の<sup>川</sup>を<sup>流</sup>り<sup>又</sup>深<sup>四</sup>  
一<sup>里</sup>程<sup>に</sup>甘<sup>川</sup>向<sup>り</sup>の<sup>深</sup>は<sup>十</sup>回<sup>に</sup>の<sup>同</sup>名<sup>を</sup>有<sup>る</sup>也<sup>は</sup>  
船<sup>を</sup>も<sup>皆</sup>以<sup>て</sup>舟<sup>に</sup>乗<sup>り</sup>て<sup>流</sup>る<sup>時</sup>に<sup>舟</sup>に<sup>乗</sup>る<sup>人</sup>は<sup>操</sup>縦<sup>多</sup>り<sup>り</sup>時<sup>に</sup>夜<sup>中</sup>  
出<sup>る</sup>水<sup>の</sup>向<sup>り</sup>に<sup>舟</sup>を<sup>置</sup>き<sup>て</sup>又<sup>登</sup>り<sup>て</sup>川<sup>中</sup>に<sup>舟</sup>  
甘<sup>川</sup>向<sup>り</sup>の<sup>深</sup>は<sup>十</sup>回<sup>に</sup>の<sup>同</sup>名<sup>を</sup>有<sup>る</sup>也<sup>は</sup>  
しめ<sup>て</sup>通<sup>る</sup>山<sup>を</sup>穿<sup>ち</sup>て<sup>見</sup>る<sup>所</sup>に<sup>甘</sup>川<sup>向</sup>り<sup>て</sup>甘<sup>川</sup>向<sup>り</sup>

母活石の軟如とのを合むしニタイカキ下りモ  
へツ川の産サニ同氷色ありく陽く母を括押く底  
け迎夷家多し藤籠も産し夷家越し子を飼ふ  
高サニ産人余りのく通すを積四方神園に干内  
放し五紐く形面七く猪し西子似たり毛色黄み  
サレ夷村之サレ川の傍ふあり出川早急合よあり  
よりモへツ川し傍ふよりまを今モンへツサレと云  
とハ蘆と事之モとハ雪水の流るを云モンへツと云  
吾川と事之年天の社をけ迎ハ夷人もあはれ

通しなり日中の人好み夷人余如く考も何ものも  
モンへツより傍通り奈山とニ産山と山と奈又崖壁  
あり山と川とハ川と中士同許舟底之ケニ川  
中士は程水とく流し又カバリーの川フツモンの川  
アツへツ川と川と産ハ何にも夷村とアツへツ川と産  
て路及をりたハアツへツ川石川と産中島中を  
チンカラチと云はる川と及し傍小敷を鴨は  
葉四人余り并はる産も之を産高産を有る産  
中産なり又アツへツの川産と夷村とアツへツ川と産

り事なきなり那路より一欵を義法寺に託す事あり  
上をる事路を余りてウキリ山之こき西に下りて  
里余の山を檢らるるやウキリ山の上のクサこのま  
躰獨之け也此地膏腴よく草生なり麻を畑草  
稗稗とれれ生し上アウウとて川を他ひアウへツ  
出たり山を他く海邊通り上セウウウ之川を海邊上  
とて程闊て平ありとて此のめウチウヤと云ふ  
セウフウと云ふ川又少半夷村もセウカアと云ふニイカ  
ツウウと云ふ河を他くも余ウラリイ一里余にして十

櫻

ヤシ夷村の河を他くも半間水をもとく深し海邊と云ふ川三  
筋ありて淵と云ふは古河と云ふ川よ今山と云ふは後を内が  
金糸を云ふなる石ありと云ふにヤリが二里ありウセナイ溪  
通二里許海曲く流るる所山間余の河をセウへツと云ふ  
シウナイ川ニウと云ふウナイ海邊通た山に海上半あり  
水ニ四半ありと云ふ所程平ふ実ありなりぬ二三石在  
三里程の間谷あり山と云ふ山流るる夷村フコウと云ふ  
一里余たふ川を他く二里半間あり水と云ふが土人あり  
ぬふ水原堰りく石流秋あり水宿りあり海邊通る也



て麻の舟を造りてふけ舟をへしトカにふし十餘妻村あり  
フスといふフスの上ハ山敷は皆方寸くして穀土を海崖に相  
並ひて是は本ホウユツ十イを云はば通テイクの妻村に  
イし村霞夷地ハ杉松ノ別々杉ハ見あつたなま  
向ふハ五里ありて千弁敷中ハ二三有海辺十丁余あり  
両山と間谷沢を渡りて善徳ノ坂をせり十四中あり  
坂を降り谷間清水を縛くテホし村に左ハ高山お圍  
右ハ三ノ石川と高京の川ありて上ノ事一丁余川を渡り  
向ふ方ハ也。事をもつて法也と云ふ。山ありて

いとニ夕の月とて大なる高十丁余美人けるを袖ふ  
ありテウカカヒイと稱し石ノ京沼之東ハ川と川を渡  
りて船ををりて川を渡りて川の側をりて上ノ事一丁余  
川中ニ間余の大石と川通りて上ノ事一丁余水原ノ海  
とてイニニの川敷を渡りて谷を八折りの事有流出雲  
母石原石陽化石石莫の折也。事をもつてテハウシの高後  
ト出川ニ石をもとく東南山間清水と流をチハク十イとて  
十イハ流之川通りて上ノ事一丁余西ハ山ありて上ノ事一  
出右ノ方流之をりて一里余至間大木の側通りて両山

松をたたくはよくその形をとりて通す事 勢をとりお事新  
て上右石岸敷多し山上海急切なるめ一頂上サ秋の  
大サツ梅ありて 檜杉栂あり 家傳をたす方ふりて谷  
筋をシツフとふ 谷尻左右敷き 夥し葉と大サ山人余  
其草七子廻りてふ少敷多し山に叶知く 穂と足跡は又  
お東の方夷村とへハウとふ又東の方少なりハ水無谷あり  
搬夫ハ多の程目の中と 町と事あり 燕ノ色柿色ありと毒と  
有り馬ハ土地あり ねまの地一 運上風不半馬ありと事  
ハ足向くともニ石ハ海邊ニハウシ山をたすニ石川をたす

度リおちす方 山子住ハ沢とスルクシコワイフを通り  
櫛石之山上方 櫛石なる 形ありハハハニテ有申ふるハ五石  
之秋枝皆同 出湯地リニシテツラ川を岸ニ捨同中舟  
渡之西山ノ間込ニ中込余以し向ハ御用地入口ニ岸  
高札有く所ニ法禁条目書ニ浦川ノ流也舟渡  
度并中同程シライトの産村ニツカニチイの川川之  
ウラカツ早ホホキ海軍不実申したるお湯と岩多  
お湯を廻り水の産り由ニハ産地をたす浦川ノ入也  
丁ノ産地ノ由ハ産地をたす川ニユハウとふなり



見ゆるナニヒアの川を降り上り事由里余りまをて  
山平に入テこの村をえしなふ出川をかり海屋ふ出石後  
あり路を眺一海をたへしヤ又ヘリ石川之まを海  
岸へ岩を介ニ余フヨしエこの石川之大岩を余の  
高サを石川へ傍をてくテエフしガユトニとも川を  
り事一里許岩山を降り大石屋ふ障ありなふ  
岩角の上を伝道すテケウしの眺如く之を登四女奈  
海ふ出たり何れも穢之樹をりりぬ一岩ふ遠上  
小岩眺くくま障島一岩上六鈕丹のぬりり

高老一岩障ありく岩あり一洞あり如く波よりを  
伝て又まをてくぬり如く之を登り高老を廻り又高  
くぬり之有る岩を抽く又高老を伝て石屋ふ出路  
をて海屋ふ出り海をたへし障あり石山之まを四女許  
干傍石山をテナイ上りまをて高老を離せし山を洞を  
風景相名丘高し岩屋ふ出たり洞ありちせり中へ入  
見ゆる山を眺るて見ゆる高老有る高サ余  
眺し傍四人少少洞あり有る高余りて大洞あり有  
夷人少口よりまを岩有る山あり上京山あり

石人ト云々形亦似たりたし崖上より遠處より三人  
斗て中流に風吹たり霧し如く近處千石ありく  
此岩を李白岩と名付たり云々此岩有浪石ハ仙人  
山と名付テユシキリト出雲と切きたる岩と稱す浪  
のまはるる處よりありて定らるる千石稱す如く折石  
奇麗なり河内大石稱又中河余り定きたる定を稱す  
浪のまはるる時ハ浪のまはるる時ハ定付たり時浪荒  
れ度二丁余あり屋向し如き切きたる山とよるる云々余  
此山を云々口出たり念佛坂と出坂中此の御座りて

まはるる河内と云ハ赤口河内と路中し冷け坂の取手と  
川端岩通リ十余り新及切石し少座を赤口と云  
大河之川中流有彩石ハ可也如く馬も通る程  
し道の一處通少は有ウヤチの少川ウヤチハツの流也  
越くニカシハツの川程夷少座有カントスカハチカユツ  
ノユコし也けら後通大石有夷人千とイシユマアと云  
アヤキ川を越てクシナイ川コカチ川ハ赤シリユム舟  
御赤口イウと後通少座ニウ越しユモと云川を通り又川を  
後通ハアアラコと云え花山及入坂を上り東河り



嶽一十三又洞七十といふ間川有川の左右大石あり此処  
里寺絶へ十七七岩の嘴形状一奇六十八九上向少湾  
少嘴をみれば其嶽をテレケウラに似たり亦一八九二  
正四湾を辨るる大いり毎湾不遠を正六平岩を  
大石あり青い少嘴を廻りてサレと到るサレ川を  
海へ通る山の間少いふフシ言の山後産産を  
後急ゆりく石も又大いり又少いり又ケの川を流るカモ  
イカルウの移る山中夷人へ推路有近及十歳標  
を立く此をスルクヌケの川を流る此処よりおきひ

中間少山路をみれば海崖の傍をまきりぬき船を  
トモツクしとら山を登り岩海をみたり山をみたり  
竹ふた十余り、岩山海中に出る之を下海潭あり  
打ち浪定し中みりしとら角尔是をみたり又是  
の角を攀通ると向方角余の入りたる所有此を  
暫く休む又十あるもそのめくみりしとら角尔  
新石のめし浪を登り後を顧む深淵をば厚高く  
目眩く魂消るめしとら之の及中嶽をテレケウ  
テレケウナと云佛坂トモツクし新石ありともけの嶽





トウファイ近八里余の本谷め付ラツコヘツ川をサキチヤ  
千波とチムニクと云山は又ツカヘツと云川を大河の川の  
中洲の程を多の糸丸本ラツコ又ツカノ三川を原コロウ  
ベツと曰ーヤコイト云少川有付川糸をセムヨニ曰も  
かこハトカチキ出さうー土人を新なる後通大石おまひ  
石間本谷のめーワをシユレマウとチキキサニハツの改大  
河有トヨイヘツト云アイホしてワは川の廣サチ間サキ次  
の川をモヘツと云出川之水流多水半ニスウカイ遊泳  
まヘルツナイ最大河之有サチ所余水中ニ洲村を多ク

ことル本を川筋のうみめて流る付川上ニメシヨム夫村  
有水源としヒチヤ川ウラ川とい山分ち川水の内ハ  
山脚に於て去分往来難かうー海舟の夫人の歌之  
河を渡り山を越し山上にお地て山も是をを産跡之付和を  
イナラシと云夫のホナイホニこの流を越るアイホして  
この川を渡り又野たホシサシユと云付知昔時人全堀し録  
る偶海上に舞を園を是る海面雨あり後通と云  
也一都く録之は也イルカ程の急移る海上を是る  
録の毛く匹を去る山と海中も有付目トウファイの

藤彼ふ高を○トウワイが後の島より引下り  
美人の家を想ふ足みづく是館あり有揚屋の屋  
し取らち旅のめ一尾の羽ハ鶴ノ尾白一又各系  
を二里半の平山通り川の流也之中其余川成勢  
も重余打曲く山の少高き本を村に入草押多て其  
出たり此石溝塘と稱之美人の同く昔時金塘也と  
まら金を物知しなう一乃去平山と稱るも而く金  
浪をこ出れか一思ふ浪居通の終妙吹多なるを  
ある一海辺にそく終妙之○トウワイを出く川を流

トウワイの浪の高く之浪通た山止の故て山止ハ  
東に走カヤライの浪スカトウワイの浪程之山止間小次  
をチ子タイといふ山有シリヤムと云タイカといふ浪  
四り之浪上向也三の山を大く其佳景之まを暫く  
りて女山の間の小流をトコイといふ小次の間の間  
シユウ子トコといふ村あり又ユウトウは山止の浪  
を重余の有大浪之中馬ニ有又りゆをたのるの  
流也をウフしといふ小次の間をチウヤフといふ山止の  
大なりは美人昔時流たし舟けあふるをなふる

山下ハ大派之千ツキヤト云限中カキ有ク同色貴  
ま一チカホツニハツお針き山と云の川モトウ  
りつ有モ山を隔山の後居てお也一て云方山居  
五チヨフシ大派之ユウトウ小橋きたる派之又海通  
山と云系之帰路已ル日書てヲコフナイニ也  
該館の傍川之傍カ毎カあるは毎ハおまの内をケリぬま  
たる之川の底井ノ所余針カアリノ候有トカ千川の多  
カカ之系なるをり何程も出トカ千の川を居。美人の山  
小橋肉を云云云一少海有海辺路也路一絲達

カサチ人余美人用も書を云云云云云云云云云  
滝と云る云云余中居の水段と云噴也云云一  
ケこと云限川有コフシカレ云云云云云云云云  
と云云云四カ云云石女一波清石何カ入く大石の上  
カ枯く生湯を兼ハ山居清のぬく山骨巻く針紋  
を云云洞多し叶也をフカホレイと云ヲコヘフの川を紙  
の同出山あり川をヲエフへ云云の山の高ふ多て流を  
る云云の通川と云云云云云云云云云云云云云  
ナイ沢川の底ナカレユナイカ川云山同出云余滝有ヨイ

こまヲトシへとも山あり其小は流らるるなり一五ツ  
へツエトフウとらふ崖壁とて石を換へ大石の角を踏破  
越て通すけ間ら所仰見せハ輝て底へそ城の石を  
こらふ事か 溪辺砂石多し海辺山懸くある川も  
有ニヤツヘツのち路之日暮しヤツヘツの路彼ふ有と  
ニヤツヘツをぢこヤツウの川ニ水合流し度并一所余有  
其山山崖多く出せモンヘツニ水合流しヤツウの川分た  
ムしヘツがチレヘツの川を越て山間は川チリこもモセ  
ウレナイは川とタウコウ合川とそが山を山のもを

ハレサレホリとち一傍方の川をハレクハヘツと云テ又こまへ  
山間の小川と少庵有名なり一チヨロコツの庵ニヤツ  
其大なる其が東に生け日ハ波うくニ傍流く衣服あり  
少庵ウレホとちこウヘツの川の側を通りサルヘツを流す  
此白ニ水合流し砂岸乃十所余あり白飯の流飯あり  
白飯は溪辺たふ跡草を分て十所餘行サルヘツの  
河原小川一較別其多塩と一河原を越て河原を  
行川を越て事 新をイナウレナイあり以雨を言り  
少庵り雷とてめさ其人を欽めそ毎日をたかく長とせ



久須利と云ハクスルより久須と云きまのしをたのよし  
と口を海上と直路と云事ぬよりクスリよりお徳の  
山ををり中沢より有坂より後はお徳の石多し  
中川とヲカチウツを流く山侍くこの大石を云并各  
二と云余山のお徳を云く東内沼有アルトウと云  
しツホシユウウしの風中系を云くぬ一と水多く  
土石と向かお徳右大石の石れを合みこのコンフヨイの出  
湯を流くウコウナイの中沢有又お徳を云く滝ニウ  
と又お徳と大石と獅子の形流き余流たり余石

けりお徳の石と云テし子ウフヨイのお徳の石門を  
通り急崖絶壁し根を流し入洞に系と云事絶壁の  
間をけりお徳の石を合む石炭を云く各付て  
石炭崖と云とお徳流るく山路を越く後お徳流る  
ヲソウナイと云又お徳流るく山路を過り後お徳門  
有テウツナ沢川を流るロク子ホワルみお徳海中お徳嶼  
と云流るより一と上山石を載く風景甚奇く又流  
る向く大石あり有力と云コイと云山流を過く洋中を  
らぬと云大流新千瀬を吹く石橋しぬ又後通海中

まき石らう有口と云く同石門有甚大を弄く  
石門く外の中を通り山勢く後出又石門有是井四  
石門之門也とは水く流道有に千セいと云後通少川  
有千コフしと云又お徳丸有お垂ひを流すく浪す  
時忽も又山を越く後出大石有人のゆふ伏て海を  
包み似たり名有て脚遊石と云此川有ツタトキと云又  
二大石後視のありお徳丸山海中ふ突おすお徳丸を  
通りとく中川有パイナしカマと云又二山を隔く  
此川有各名ありけ田分山屋く形状奇峻あり橋を

垂るぬく石居と云後西りふぬぬあり千ヨトロシへの  
川を越く山勢隔ては泉をアツチヨロベツと云此川  
川より有各名ありとく同余の川有跡及を流道て  
海へ入付木をとし千ヨロベツと云川を越くお徳丸の大石陣  
ありて踏かき岩角を踏くりコンツカルシの旅舎あり  
朝雨とコンツカルシは雨あり居たりしうき屋も雨晴  
奇石をみるてアベツイのお徳丸とく大石海へ向く  
此と云の形状宝輪塔のぬくさサ三千丈餘り階を  
みるゆい五階中より三階海へ入く人歌のぬきと云

遠くをいふ大人のさるうめー 又の後きく大石のその  
可なり中葉名本化名しは是より一海と名の下ありし  
石手の中水海に守けり海と名あり事あり可  
コレムイを出入のついの物語と名 山崖の状と名  
奇に後述大石おきく石歌と名 石流有ホルイ  
ト云石門と名を出入てクグことふ山有石山と名の  
沢之大石名後述を接きり 石山半間余中其の  
るりモル大石有ヤニクイ山らのる沢と名 又ガア子ハク  
ラウシの後述をさく 可なり後述及絶てニヤニ石大の

大石のハク後述おきひ石解と名をさり出く見世ハ  
海中不実出たり石山有山と名 海水堪ひふて通  
りふをけり通すとモウクと名 険阻あり多し  
又海京実出たり大石と名 山削ふ大石し事有海水と  
るり折入回らり有海名十間又後述と名 多く  
少礫石の凝たりとトニヤフクラと名 海中と大石  
散る鳥籠と名 似てニヤニ其の事あり 物語山歌あり 大石を  
合む中沢あり 又白又物語の石名鳥をテシヤウワタ  
と名 物語と名 後述及絶て 浪高く事をさる山



あつた山中仄うろ有けきモトよりとらふナ所余あて山を  
かり海の上実あたる平石有千申さゆ下余中あ板の  
ぬー後迎お後てけるまなるも有石の名をうじやう  
とらふ少川有ア子白カとふ又一山を隔て清泉あ苑曲一  
流もをも又アテヨカと云ニ水休ふ多向一くワ夕う  
大石より十丈余海中あきそ側ふ山余のま石有あ  
陽大山と山を廻り滝有とらふ余両山と石るが  
あつた又一山をさく滝有その滝が少く一後迎ふ  
方其余の大石とあ並ぶ石のるをさりか後迎はるる

て大石ありその上を竹ふくかち所もけけをりし平  
と云ふもたあ狭しくけさー山の上ふはあふと其  
冷ん山中大石多一坂をりり石をりし平ト云ふ  
の迎を廻り千と千と一の山はと山をり林し申と云  
ふ山谷仄有セウフ又ケウフと云山狭く又あ東の平山  
をさく山が海をさむ山さく是のあり又ナと云  
まの林を穿て山あきをたふスリりの山をさむトド  
の林と又山を許せぬ女麻甘柳甘園有石ふ谷川と  
ワホテナイとらふ深林と申をりし一里けり林をさく

トド入林をて坂をりりアウケシの入海をむむ水卒ど  
後くぬ四方山をぬじ風色西すぬ及坂をりり  
セウフチウシの旅智ふ者もセウフチウシとアウケシの  
依船を待午睥以衝船を艘せん車風を事務ゆ  
因く舟のあふも午飯を右の海濱通りを遊覧  
まはるとトウトラシトイと云大石を以て崖壁を  
大石を千歩滝川ぬる有テトシへと云又ハルシとヤウと  
云者高き大石をまゆえ又ホウワタラへつと云山頂か  
る中石雜樹ふ崖壁を以て見しとて停ふ大石有る并

十歩り中三歩程を并まふ人形崖壁のあり石の  
下まふの向る色をりりて崖のありホウワタラウシと  
ふ千歩水中に石有る并二歩りまふぬ崖壁の上を  
行ゆくへしヤトナリエトフウあらしのけの石を并まふ余  
く向干上を蹴り又有大石あり大石大石海水  
を流すを以てまふ通りとて此のゆるけりた二里不足  
途中を待たる物石給は化石のしセウフチウシを  
舟のあふを通り山の出務を見し大石人の山を有ユウ  
ケラシと云又一山をまふ海濱礁石ありけをマカワセ

ナリシと云山後多き早山有る故にカドク崖を  
多しエしやモトイと云山間の川をジエシヤモトイ  
と云是山樹多く山師有るセイカワシヤラと云  
子信の川をセイカワシヤラと云川を越へハカウ  
云ハ知事村有山後少路又山を隔クテクと云  
村有山有女込川トテタウと云お後たる山シワテ  
タと云山おく土のぬくぬきをヤワシヤラと云  
と云又山崖多し山をタヘと云又土のぬき  
山有モヤウシと云又カケ山お後く山の多き

あとしウヤと云海中晴確点と云あたるるゆゆ  
ハ舟多くトシタイ山お後く海中少洲多  
トヤリヤの山ニカケテ樹多トウタヘツハ出  
の尻尾と云トウタヘツ又一山を隔たる川  
又トウタヘツの表村と云又トウタヘツの表村  
モシエの出路山有山と云田多ク度多ク又ウ  
キヤウと云表人の家多キ山ありウ  
子ツフと云是山の間に子ウシウと云山を  
モイワと云又山と云山の多キ表村と云

シテ今お侍夫人と云ふ間を霧降して雨のあつて傍道  
沙上とてサ利を自來先事をもせんを夫人海へ入く牡蠣を  
を採<sup>る</sup>大升者尺余大と獲食ふ味ひ甚佳之鏝  
餅珍剛と云ふ御中皆をけぬの眞跡ふ千里の諸像  
を彫む一盃し酒を傾て楹をうつて益食を醍敬の天が  
を造て推乃又舟の糸山峯をせり中宿とせし程  
変て是日又千ヤしと云ふ時有神祠を安ま鳥居三  
つとけり、悉く禱殺えは中宿御所と云くけぬを  
夫人居と云ふと云ふ一居をがしにあり千し子ナイと云

水は三沢の南傍山と云ふ所の原えりその田も沢をホイ  
コイトウと云ふ又分山お後ヲシカニウと云水申ホセく  
出たる湖先をわたりてヲン子カレしをさく妻村をサシ  
子ナイと云山をチカラコクンと云け田の水申ホセは  
此の甲斐村をカヒソ人と云又分山の山麓をしユサヤイ  
と云山を隔りリイラウシの妻村有け本を流く大川を  
トウハイと云そ侍の山をイコトニへと云イコトニへを隔て  
大川有トキタイと云け侍の山をロリセイと云そらるふ  
中宿にありそ人あると云をイしにハと云又ウシにハと云

又リルイと云け浪と西山の嶺の浪の中の時を分つ  
ころあま村有るあまの嶺をこし人といふ是れも又  
村と別山を越えたる時をこくニユイといふ村を  
けるあまの嶺海船の嶺あり又山を越てアワケし  
後官舎夷居お新りてまよふる後くして石  
多し倍償夷人元水入舟を押し居るあまの嶺を  
夕右とあまの嶺をハラシヤと云ハラシヤと云出たる時を  
アイカワフと云け海船の嶺を押し居るあまの嶺を  
風を越えたる時をハラシヤと云ハラシヤと云出たる時を

あまの嶺を連くは水後のあまの嶺をハラシヤと云  
嶺を越えたる時をハラシヤと云出たる時を  
を越えたる時をハラシヤと云出たる時を  
と云浪と云アワケの嶺を越えたる時をハラシヤと云  
浪を越えたる時をハラシヤと云出たる時を  
けして物あまの嶺を越えたる時をハラシヤと云  
たると云ふよりしてアワケしと名付くは夷人コシヤリ  
ウ物語ありてアワケしがハラシヤマの嶺を越えたる時を  
の嶺を越えたる時をハラシヤと云出たる時を

ヲヤユツの生湯小上り妻家支五モユリロイ山隈り  
てホシシタの山を山長く後までしヤマキイウと云水湾  
りて又山をヲタシユトルシと云山嘴あり  
む大之水中小穴ありキベシノホリの山を  
お後て名  
しヤクキウセと云山下に河有川口流しトキニヤクハワ  
と云子モロへの及之又山連山名あり又大河有ウホロヘツ  
と云又山多くおきて下り低く水をキイキヤヤと  
云又山をさくしこよへあり。ケラシク大なりと云

イナロと云橋あり山路ありなるをくナウと云  
少路難多し一巻く名をかしこの後并山山四  
程者下内イナ路長一里中を山河程あり大河  
四つ流合を石不多道く流す下外山川は水多し  
山中昆布見多し山の廻り山を山山山  
多し石を悉くさし世定めて田をあり

蝦夷アウケモ追往來通し記終

東夷傳  
卷之六  
丁卯年  
丁卯年

文化四丁卯年九月魯西亞海賊船騷亂

東蝦夷地イロク島始末聞書

抑々之記初系八ノ至先祖八宮ノ既定文中蝦夷  
諸紀ノ帝中系初系ノ庫初女ノ月大倫又ノ續  
之取也之被地ノ記ノ其詳此征伐夷賊ノ為  
以獲取ノ如指以載 其法暇以府ノ其其最上竟  
此和蝦夷地等右戰功ノ月而家ノ蝦夷地ノ内系  
此方ノ中ノ如如詳述ノ月而蝦夷地ノ内系於初系  
表ノ場取也定運上令 其產物亦年ノ收納傳也知





と増すは進下上ハ是船六艘一由是船ハ七人  
乗舟五艘ハ七人乗舟幸々揚付之船十艘  
ナリ陸上ノ各交易ハ是等ノ海亦之如ク  
津役別以運上別ハ大筒ノ亦改地ナリ天  
守ノ船務ノ用意ナリ是船ハ大勢ナリ少勢  
反々陸山林ノ進退ハ是等ノ船ハ大勢無  
以運上ノ別別以運上ノ別別以運上ノ別  
大勢無ナリ是等ノ船ハ大勢無ナリ是等  
船ハ大勢無ナリ是等ノ船ハ大勢無ナリ

中ノ意取上

五ノ意取上

五ノ意取上

五ノ意取上

大山也而名也

一搬賣地賤動露ノ意取上ノ船ハ大勢無  
人三人南於陣地ハ五月九日ハ是等ノ船  
利發四候也是等ノ船ハ大勢無ナリ  
一玉取ノ意取上ノ船ハ大勢無ナリ是等  
船ハ大勢無ナリ是等ノ船ハ大勢無ナリ

七日朔、先勢如之

一、般夷、洛札、區々、汝、佐、之、般、ら、お、か、り、す、り、先、に、  
搬、弄、地、打、前、仲、之、是、也、大、船、口、五、艘、も、余、居、  
通、り、を、り、し、時、方、高、人、船、二、艘、を、石、火、矢、并、に、  
之、般、に、く、し、少、き、般、六、艘、を、以、捕、り、遊、去、り、  
一、松、前、狭、山、家、を、以、人、行、長、く、お、か、り、汝、佐、言、  
是、因、に、海、海、に、中、事、を、云、

一、秋、口、六、段、迄、之、を、軍、中、り、堀、之、を、知、一、指、物、見、  
者、至、是、我、れ、お、仕、付、地、指、之、を、是、に、以、以、指、

之、に、取、戻、之、人、家、堀、下、に、お、か、り、以、指、入、之、り、  
位、お、か、り、し、子、の、改、役、人、お、か、り、或、急、お、か、り、之、用、口、五、段、  
位、是、高、時、三、百、と、位、其、其、之、一、也、

一、以、是、書、白、也、大、将、軍、之、一、に、取、前、打、備、候、平、方、  
城、之、打、備、之、故、字、及、軍、總、司、の、語、老、申、に、以、堅、  
田、候、堀、目、揚、屋、と、及、以、二、方、法、下、向、凡、は、中、五、段、  
也、故、方、を、お、か、り、人、お、月、た、り、と、進、く、者、之、自、身、ら、  
位、候、進、く、以、暇、ら、お、か、り、立、大、目、附、中、川、虎、守、守、  
堀、田、中、川、古、日、六、日、の、為、馬、打、備、候、之、を、向、  
之、

是日海上  
據船客云

八月廿四日附船書

去月廿三日某館より南東北の方東嶽寺地  
上トロフ嶋の内十イホトトある島西亜船式  
被りたる島上陸者人未振捕者至病々焼  
拂日たわの日島の内某館奉りて死而  
との水とてしやるとある右如く艘方某館上  
陸大筒舟を少く有動者も老くお防其  
人程お殺し候しお負ふ者も少くお入者  
も少くお防其大なるを燈拂く防兼一日にやと

由退るに某館より南進するに且又三月  
本館より南の津浦に仲間へ怪鳥船お見  
日本館某館とて急に高知に預りて  
西の方上中より廿キとある仲へお通し船影も  
お見えて右へお別乗とてし事於世に彼は  
風中よりおらんぬ兵士向ふに少くお見えて  
お見えて事

八月廿四日

丁卯年

京都洪水并播河泉以國上流

四月九日、如河川水、於切、後、橋、於、橋、年、三、年、  
其、年、橋、無、軌、二、年、新、地、亦、了、家、五、古、形、流、而、河、  
筋、大、水、之、案、上、下、切、之、案、喜、河、家、官、形、流、  
年、了、水、之、流、上、下、是、之、二、案、迄、分、之、橋、之、下、加、  
而、上、切、也、分、之、八、家、余、形、流、地、川、迄、之、軌、三、年、  
西、山、迄、大、換、一、祇、園、石、煙、中、形、水、上、了、  
七、案、形、地、亦、於、迄、之、水、西、形、了、竹、田、海、乃、大、換、  
大、原、山、形、大、水、人、家、換、一、大、原、邊、坂、山、迄、也、

年、了、形、地、亦、於、迄、之、水、西、形、了、竹、田、海、乃、大、換、  
大、原、山、形、大、水、人、家、換、一、大、原、邊、坂、山、迄、也、

○ 大、原、山、形、大、水、人、家、換、一、大、原、邊、坂、山、迄、也、

中、了、形、地、亦、於、迄、之、水、西、形、了、竹、田、海、乃、大、換、  
大、原、山、形、大、水、人、家、換、一、大、原、邊、坂、山、迄、也、

各庄川地は雖も村々より村新河地後河地形  
柄も無言送りある西に方庄の上は町二二  
ヶ一移居下り東畑の事あるは二形居  
梅田水つぎ飛人往る中根は川中の中  
河内と南八尾平路迄は水つぎ一活方  
河内と東部往る西畑迄は根出は地  
也り通開つて一堤川各八地村地南地  
北河内と西大水依り一由は地も存りも免  
倉物もはるは西に方も施り也

大井川其月毎に七日午己一割合はる  
はるは月より大雨は水出也

是は角市利西に戸後合存り也

秋田候より別冊と通案被仰事行形と安藏寺  
古羽檄と申は只文と云はる候は通共日  
秋田表と云はる人別別事通共日  
長敷原に馬引道ははる日と云はる用  
以地と云はる林石居居安田中居長出は信國



書役

戶部文書

日附

少室伊織

曰

赤良急去

中江匠者

梅津三伯

金瘡匠者

神保三精

陣醫奉行

若谷官助

与方三人 隱与方二人 少与方一人 少与方一人

大筒役拾五人

中川及重馬

中川及重馬

大少直次

守川重助

甲中主左

川井助八

玉名急去

梅野急去

奉行日附五人

空良急去

願者 三人

少日附二人

馬 七疋

大急人殺之者人

存通丸月分未之引到秋田城下後向部  
院始信南院能成保近操制之軍將急去









申五月

南谷大徳寺

六月七日江戸山内安是寺 杉本松田氏後

武蔵川敷松島石

杉本大和寺

遠良原松島石

井上河内守

佐藤新田 杉島石

池田信康守

山内土目附

松本河内守

之人

山内土目

医部土目

常盤土目

別所土利

北村土人

猪田新田

西村利田

古月古月山内安是寺 搬麦地 杉島石

一園土目主 三石

田村土目主

二石

伊達土目主

三石

石川土目主

八石

古内土目主

四石

七

大島

大町

八

日

黒原

招

田部

日

二

市

市

武

清水

日

氏

日

松

日

中村

大島

日

大島

大島

日

大島

大島

日

大島

大島

日

大島

一南の太極を更極積年未幾与快年...  
之五廿九鎮を浦...  
今日南の之段を以て用是を再大坂既柳...  
今日南の之段を以て用是を再大坂既柳...



三人の首上り... 於月七日

今も拾取

山合

右口断

村止

右殿裏地

右口断

加

神谷

林餘

後

三

西村

七

一説曰曾西亜人上... 交易

古月... 抄本...

名氏... 抄本...

右... 抄本...

者... 抄本...

今... 抄本...

抄本...

右... 抄本...

同... 抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

右... 抄本...

中... 抄本...

人... 抄本...

物... 抄本...

抄本...

抄本...

侍... 抄本...

抄本...

抄本...

是... 抄本...

抄本...

抄本...

漢... 抄本...

抄本...

抄本...

汝... 抄本...

抄本...

音... 抄本...

抄本...











